4/16 朝日

岸田首相襲撃　民主主義揺るがす暴挙

安倍元首相が参院選の応援演説中に銃撃され死亡した事件から9カ月余り。今度は現職の岸田首相が衆参両院の補欠選挙の遊説中に襲われた。

民主主義の最も重要な基盤である選挙が、再び暴力にさらされた事態は極めて深刻である。事件の背景を徹底的に解明し、自由な社会を守らなければいけない。

首相は和歌山市の漁港で、演説を始める直前、筒状の爆発物のようなものを投げつけられた。警護の警察官に守られて避難し、聴衆にも被害はなかったが、一歩間違えれば、惨事になりかねなかった。

若い男が威力業務妨害容疑の現行犯で逮捕された。動機が何であれ、暴力で目的を果たそうとすることは許されず、民主主義の根幹を揺るがす暴挙以外の何ものでもない。

政治家が聴衆と直接、触れ合う街頭活動は、市民と政治をつなぐ貴重な機会だ。そこにつけこんで、政治家を襲うのは卑劣極まりなく、市民と政治の距離を広げかねない。

首相は漁港での演説こそ取りやめたが、その後は和歌山市や千葉県で、予定通り、遊説を行い、「大切な選挙を皆さんと力を合わせて、最後までやり通さなければならない」と述べた。

与野党の党首もそろって、事件を厳しく批判し、暴力にひるむことなく、選挙活動を継続する意志を明確にした。安全の確保に細心の注意を払いつつ、市民への訴えを続けてほしい。それが、民主主義を支える思想・信条の自由、言論・表現の自由、投票の自由といった諸価値を守ることになるはずだ。

容疑者の動機や背景は、今のところ明らかになっていない。捜査当局は真相の究明に全力をあげてもらいたい。

首相は無事で、聴衆にもけが人はなかったが、警護態勢の検証は不可欠だ。

安倍氏の事件後、警察庁は要人警護の仕組みを全面的に改めた。都道府県警が立案した計画案を警察庁が事前に審査し、必要な修正を指示する制度が設けられた。要員を増やし、研修や訓練も強化した。

統一地方選と衆参補選は、その後、初めて迎える大型選挙であり、失った信頼を取り戻せるかの試金石だった。だが、男が聴衆にまぎれ、至近から爆発物を投げることを許してしまった事実は重い。どこに「穴」があったのか、虚心に点検しなければならない。

来月には、主要7カ国首脳会議（G7サミット）が広島市で開かれ、世界から多くの要人が集まる。警備に万全を期すためにも、今回の事件から教訓をくみ取らなければならない。

2023・4・16